

校長室から

(H29年度)

ひがしなら通心

茨木市立東奈良小学校 川上 隆 No. 47

平成30年2月13日(火)発行

寒さからの芽吹き

～進級・進学への早めの準備を～

2月のことを昔は「如月(きさらぎ)」とも言っていました。中国では2番目という意味で使われる言葉なのですが、日本では別の理由からこの言葉を使うようになりました。その理由を二つ紹介します。

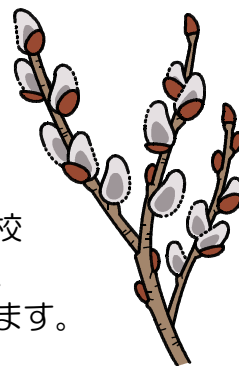
一つ目は、2月はまだ寒いので、着物をさらに着るほど寒い月という意味があるそうです。昔から着物のことを「衣(ころも)」という字を使い、「きぬ」と読みました。その「きぬ」をさらに着る月「衣更着(きさらぎ)」が「如月」という字に変わったとのこと。確かに2月は本当に寒いですね。1年で一番寒い月かもしれません。

もう一つは、今のみなさんの生活に、とっても当てはまっている理由です。2月はまだ寒いのですが、草木の芽が張り出す月、だんだんと芽が大きくなる月でもあります。そのことを昔の人は、草や木が張り出す月「草木張月(くさきはりつき)」と読んでいたのですが、言葉が少し代わって、短くなって「きさらぎ」と呼ぶようになったとも言われています。張り出すとは、草木の芽が膨らんで、大きくなっていくことです。みなさんもこれから次の学年・学校に向かって、新しい芽を張り出そうとしています。

2・3月は、今の学年で学ぶことのまとめの時期でもあります。学習や生活についてしっかり振り返って次の学年・学校に向けて準備をする時期でもあります。1年生から5年生は、4月には一つ学年が上がり、一つお兄さん・お姉さんになります。6年生は、中学校での新しい生活が始まります。

3月になったら、4月になってからではなく、次への心の準備を2月からしていきましょう。新しい学年・学校に希望を持って進めるように、今の学年の学習や生活をしっかり行って自分に自信をつけましょう。草木の芽が張り出す、膨らむように、自分の力を膨らませて次の学年に向かってください。

如月(きさらぎ)の意味には、春を待つ準備をする月という意味もあります。今の学年で学ぶことをきちんと学ぶことが次への準備になります。2月・3月としっかり準備をして、新しい春を迎えましょう。



「子どもが育つ魔法の言葉」より

by ドロシー・ロー・ノルト

けなされて育つと、子どもは、人をけなすようになる
とげとげした家庭で育つと、子どもは、乱暴になる
不安な気持ちで育てると、子どもも不安になる
「かわいそうな子だ」と言って育てると、子どもは、みじめな気持ちになる
子どもを馬鹿にすると、引っ込み思案な子になる
親が他人を羨んでばかりいると、子どもも人を羨むようになる
叱ってばかりいると、子どもは「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう
励ましてあげれば、子どもは、自信をもつようになる
広い心で接すれば、キレる子にはならない
誉めてあげれば、子どもは、明るい子に育つ
愛してあげれば、子どもは、人を愛することを学ぶ
認めてあげれば、子どもは、自分が好きになる
見つめてあげれば、子どもは、頑張り屋になる
分かち合うことを教えれば、子どもは、思いやりを学ぶ
親が正直であれば、子どもは、正直であることの大切さを学ぶ
子どもに公平であれば、子どもは、正義感のある子に育つ
やさしく、思いやりを持って育てれば、子どもは、やさしい子に育つ
守ってあげれば、子どもは、強い子に育つ
和気あいあいとした家庭で育てば、
子どもは、この世の中はいいところだと思えるようになる



みんなのためのルールブック

「あたりまえだけど、とても大切なこと」 ロン・クラーク 草思社

ルール26 あとかたづけをしよう

食事がすんだら、あとかたづけをしよう。テーブルをきれいにふき、床のゴミは拾ってゴミ箱に捨てよう。

●自分が出したゴミは、自分でかたづけよう。散らかしっぱなしはいけない。学校や公園など、きみたちが過ごす場所を散らかさないようにし、他人が残したゴミも拾って捨てよう。